

# 報 恩 寺 だ よ り

昭和54年3月31日

神奈川県綾瀬市寺尾889

おたすけ観音 報 恩 寺

電話 0467-78-7160

## ◎ 開山忌勤修について

報恩寺の御開山、朝岩存大和尚の報恩法要と、17日はおたすけ観音の縁日ですので、檀家の方及び参詣の方の大般若祈禱会を、次により行いますので、是非御参詣をお願いいたします。

### 記

1. 期 日 4月17日(火)
2. 日 程 午後1時 開山忌法要  
午後1時半 大般若祈禱会  
午後2時 ~ 3時

法話 宮川敬学老師

○法話の宮川老師(37才)は御詠歌でも、日本の代表的な講師ですが、日本テレビの朝7時の「ズーム・イン朝」のレポーターも担当されています。

○香資(1500円)は当日御志納お願いいたしたく存じます。

○植木市は15日(日)、17日と開きます。

### 常 久 院 縁 起

足柄山常久院は、林室宗茂大和尚を開山として開かれた寺院である。福田の雲栄山宗昌寺も同じ林室宗茂大和尚により開山されたが、宗昌寺は多くの檀家があり、現在の三留善浄老師によって本堂も再建されているが、常久院は明治の頃廃寺となっ

た。

寛政十二年(1800年)には常久院の持高は1反3畝16歩であったが後に報恩寺領になった。近藤武雄家の物置の柱に、「文政二年(1819年)大工常久院建設」と記されていた。

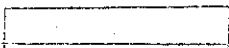
歴代の住職は次のとおりである。

開山 林室宗茂大和尚 慶安元年(1648年)一月十三日寂。(報恩寺三世、宗昌寺開山)

二世

--

三世



常久院内に清左衛門とその妻、妙節禪定尼(1675卒)が住んでいた。

四世 参道明禪上座 正徳六年(1675年)三月十四日寂。

五世 高雲現瑞和尚(傳)享保六年(1721年)七月二十三日寂。姉、清寥院月心

貞寒大姉は1713年卒。昌秀姉

常久院昌秀の子、源空童女も1713年卒である。

六世 恵日京山上座 享保十二年三月四日寂。

七世 一翁空閑座元 元文四年三月二十日寂。

八世 無底天為座元 天明五年十一月二十三日寂。

九世 円山宗覚沙弥 享和元年四月二十日寂。

十世 実翁教道沙弥 文政四年十月三日寂。石塔施主は小山田彦治良—小山田政行(十五代)家七代目

十一世 大心白道沙弥 文政十二年六月一日寂。

十二世 寿山 尼 報恩二十二世(1833~1837)剃髪 寺尾村産、天保七年(1836年)77才

十三世 尼僧 明治の頃住んでいられ、猫も沢山飼って、よく近藤武雄氏宅へ行かれた。

常久院は国道246号線の北側で、子之社の西側に位置し、現在「じょうきいの墓地」が二ヶ所約二十米離れてある。

◎子之社は、相模風土記に、「子明神社村の鎮守なり、相伝う、当社は北方子ノ神にして、まつる所大己貴命なり、小田原北条氏の臣、橘川出雲守忠重、同安芸守忠頼と云う兄弟あり、小田原没後の後忠重は中村(足柄下郡属)忠頼は郡中国府にちっ居す。その頃靈夢の告によりて当社を勧請し、中村能引寺(今足柄上郡小船村にあり)をして祭礼を執行せしめしと云う。忠重の子孫、今に村民(七左衛門と称す)にあり。」と記されている。

この中村能引寺は現在の白髭神社で

厚木小田原道路で二宮インターを過ぎ、坂を下った所の左側3~400米の所に見える神社である。

白髭神社は、九社大明神とも呼ばれ1100年前(在原業平が相模権守として在職中)元慶二年(878)九月関東大震災があったが、その前年の九月九日、伊勢の神官玉串某が白髭の神の靈夢を感じ、御神体を御謹刻し、お社を創立されたのが初めであるが、白髭神社誌によると、天正十八年(1590)小田原城が豊臣秀吉によって落城した後、中村郷出身の面々が、戦わずして落城したのを残念がり、一同帰郷して、現在よりも北方の塔の山にあった白髭神社に陣した。これを知った西軍は直ちに塔の山を攻撃、

多勢に無勢で、社は終に兵火に罹り、ひとたまりもなく敗北に帰した。時の郷内指揮官が中村原の地待、橋川忠重、忠頼の兄弟であった。その時社を灰燼せしめたお詫びにと、兄忠重の奉納した刃渡二尺三寸の神刀は今に伝っている。この他元文三年（1738年）の寺尾子之社改修の時の長文の古文書が、白鬘神社にあり、現在神官をしていられる中村秀男氏の祖父までは寺尾の祭礼には、神事を勤めに見えられた。



常久院墓地

この兄弟の兄、出雲守忠重は、報恩寺過去帳によると、心安宗永居士（1626卒、七左衛門）である。三代七左衛門の弟莊衛門（1710卒）は名主を勤め橋川和秀家の元祖である。

四代七左衛門は、元文三年（1738）子之社改修の時名主を勤めており、その弟左右衛門（1736卒）は、橋川基家の祖となった。六代七左衛門も名主職に有った。七左衛門家は「なけえ」と呼ばれ、八代七左衛門の二男の二代目は橋川信太郎氏である。本家の「なけえ」は福田に住んでいられる。

◎ 常久院の墓地は、弟の安芸守忠頼の系統の家の墓地が主である。

安芸守忠頼は橋川重義家庭にある記念碑に、「天正18年（1590）十一月二十日（七月小田原落城）に來り住む」と記してある。戒名は心英宗安禪定門（1645卒、庄左衛門であり、二代～七代が庄兵衛である。六代庄兵衛は、1758年に名主を勤めていた。庄兵衛家は丸山の家号であり、四代庄兵衛の弟の庄右衛門（橋川静雄家元祖）と与惣右衛門（橋川八重家元祖）が分家している。

○安芸守忠頼の子とみられる弥兵衛は十代まで弥兵衛を名のり、十三代当主は重義氏である。その三代弥兵衛の弟と思はれる長兵衛は八代まで長兵衛で、家号は「辻」である。

○「丸山の店」の元祖は彦左衛門（1676卒）であり、八代彦左衛門の二男が庄兵衛家をついだ。長男佐四郎氏は横浜に出て商業の経験があったので、街道筋の弟の家と「地どっかえ」をして店を出したので、「丸山の店」の家号となった。橋川秀家の元祖は八三郎（1675卒）で、五代八三郎は五代彦左衛門の子である。

○上記の他に常久院墓地には、橋川苗で市兵衛の系統がある。元祖市兵衛は1634卒であるので、1590年の小田原落城の頃、二兄弟と共に戦った人と思われる。八代市兵衛の弟に銀右衛門がおり、三代銀右衛門は紺屋をしていたので「コーヤ」の屋号である。その子の二男太吉氏は明治十年頃、市兵衛家を継いだ。

○橋川一三氏の元祖弥右衛門の妻は1667年卒であり、橋川清春家の祖、

大郎左衛門は1675年卒である。

橘川カツ家の祖、市右衛門の妻妙順は1640年卒である。

◎ 常久院は1613年～1642年の間に創建されているので、当時は庄左衛門、弥兵衛、彦左衛門、八三郎、市兵衛、弥右衛門、太郎左衛門、市右衛門、四郎兵衛（妻は1661卒、絶家？）の九軒で、上の墓地に三軒、下に六軒となっていた。現在は上に六軒、下に八軒である。

十世、十一世の住職の石塔は上の墓地に、他の石塔は下の墓地に安置されている。

る。

報恩寺の過去帳に、常久院の墓地に埋葬されている人達が全て記入されているので、常久院は独立した寺院ではなく、出張所的な活躍をなし、その維持は二兄弟の弟の安芸守忠頼の系統の人達と、近くの近藤苗等の人達によってなされていたものと考へられる。

◎ 報恩寺駐車場は13,000年前の先土器時代の遺跡で、石のナイフ等が出土したが、常久院は縄文時代の遺跡で、勝坂式土器片（4800年前）が出土した。

維元文策三戊午載季春廿四日當別高座郡上  
 寺尾郎惣社東將山子神大明神並左右之二  
 官健三社修補特拜殿拜殿履殿共三座殿及末社  
 天満宮天満宮名自老シケテ新造資成依圓成而三分  
 拵役人衆中令馳遣二使於野寺而報余云迄雖  
 遠足之勞莫任往古之定例速未列隨執行還言  
 余事且願莫令廢却於官例寺は看將是自

寺尾邑明神再興並拜殿造立記  
 別當 中村 旅 神山能引寺  
 法印 寶道